

The Correspondence of Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉦山
ニュースレター

鉦山 録



おおり

Illustrated by Hiyama T.

Contents

Vol. 12
Mar. 2005

- 特集 シリーズインタビュー③ 辻井 達一さん（北海道環境財団理事長）
協働的森づくりは楽しく。……………2
オープンから 34 ヶ月の活動報告……………4
使える小ネタ集……………5
リトル・ヴォイス ～リレーエッセイ～……………7
お知らせ&わいるどれしび……………8



「ふおれすと鉱山の森づくり」それは市民による環境ガバナンスの始めの一步。北海道の環境活動の牽引役、北海道環境財団理事長の辻井達一氏に、森づくりを語ってもらった。

協働的森づくりは楽しく。

共通認識。 それが第一歩だね。

●ふおれすと鉱山では「市民による環境ガバナンス」、つまり、市民自身が環境管理の方向性を決め、実行できることが目標のひとつなのですが、その中において市民の森作りは大きな要素になっています。そんな森づくりですが、市民が主体となって森をつくっていかうとする動きの中で、重要だと思う部分は何ですか？

辻井：森のイメージはみんなが違うと思うよね。たとえば、故郷が胆振だった人にはミズナラとか、カバとかの明るい林が原風景だと思うし、九州から来た人は杉の黒々したのが森だと思うしね。それを言ったらすごくたくさんあると思うんだけど、だから森をつくりましょうって言って人を呼んできても、みんなめいめい持っているイメージが違うと思うんですよ。こんな森はイメージと違うから嫌だと思うかも知れないし、なるほど、ここは違うんだから、違う森をつくらうと思うかも知れない。まず、ここではこういう森が無理が無くて、成立させるのにふさわしい森だって言うのを、土地の歴史とか元の植生とかも入れて考えて共通した認識が大切なんじゃないか。

●共通の森っていう？

辻井：そう、共通の森、こういうものでやりましょうよっていう所まで持っていけないと難しいんだろうな。そういうものに持っていく必要があるんじゃないか。

●みんなの共通の目標を作るっていうことですね。

辻井：うん。共通の目標を立てないと、ずれてきてしまうから。つくる森についてみんなが納得するっていうのが重要だよ。そうしてみんなで共通の目標を作って何かをするっていうことも、すごく大事だと思う。

地域を好きになる手段。 そして環境のことを考える手段。

●辻井先生が北海道遺産の関係で、地域の人が地域の姿に気づいて、そこから地域を発展させていくためのシンボルとして遺産を選定しているということをおっしゃっていたのですが、こういう森づくりも市民自身が自分の土地の森を育てることで愛着を持って土地を見直すきっかけにもなるのでは？と思いますが、

辻井：まさにそうだと思いますよ。自分の庭で自然を愛でる。っていうのはもう難しくなっている時代でしょ？でも大雪山とか、大きな自然を見に行くって言うのは、それは身近な自然じゃないよね。毎週末に自然を見に行けるような、そういう環境は北海道にはまだたくさんあるんだよね。そういう森を自分たちの好みの庭にすると考えたらね、北海道の森づくりは贅沢な話に聞こえるかも知れないよ。だから、地元の人に関われる森づくりで自分の庭をつくるみたいに、それぞれの心象風景をつくれたら、もっともっとその土地が好きになるよね。

●そこから環境のことを考えたりとか、森のことを考える広がりもできるかもしれませんね。

辻井：そうだね。そういうものがなくなってしまったら困るわけだから、そうされないためにしっかり調べる事もできるよね。

協働を続ける秘訣？ それは楽しくやることだね。

●辻井先生が言うように、みなさんとどんな森にするか合意が取れて実際に作業をしていくとして、森になるまで長い期間が必要ですよ。飽きずに続けていく秘

訣はありますか？

辻井：そんな上手い方法があれば世話はないでしょう(笑)。

一つの例なんですけど、ある工場を囲む森をつくりたいと言われたことがある。北欧のような深い森をつくりたいって言うんだけど、それは300年かかるよと言ったのだけど、それでもいいということで相談に乗ったことがあってね、でもできあがった森を私らは見るわけにいかないんだよね。それも寂しいから、だんだん森になっていくんだなっていう途中を、お互い見れるようにしましよや。ってことになって、遷移(植生が変わっていく様子)を考えて、50年、100年たったらこうなるっていうことを予想しながらやっっていくっていうことになったんだ。それで50年後には明るい林ができあがっているくらいにしようねってんで木を植えていって、今は工場の外観なんて全然見えないですよ。

だから、目標は遠くにあってもいいんだけど、木の寿命を見越して我々自身も楽しめる途中相を設定しながらつくる。なるほど、こんなになったわいっていう楽しみがないと。

それと、他の所でもどこでも、楽しみを持ちなさいって言うてる。夏になったらクワの実食べて、秋にはブルーベリーを採りに行くとか、森のいろんな段階で楽しみをつくっておかないと。北海道ではありがちなんだけど、森の機能だけを目的にして森づくりをしてしまうとね、それだけじゃあまりにも散文的でさ、もっと遊びがあってもいいじゃない。

●なるほど、楽しみをたくさん用意しておく、人も来ますよね。人の関わりも育てられるかも。森づくりに関わりやすくなりますよね。

辻井：毎季節人が寄るようにしておかないと、植えたけどあの森どうなったかなあなんてんじゃダメですよ。

今年もこの季節になったからあそこの森に行って木の実拾おうとか、花見をしようとか、自分のお気に入りのね、森があるといいよね。

●今はそういう森が多い気がします。楽しみこそがみんなの森づくりの原点かもしれないですよ。そして自分のお気に入りの森をつくるために言うことで、森づくりに参加できたら素敵だと思います。自分の育てた森で自分が楽しめるっていうのはいいですね。

辻井：それから、同じような森だけにするんじゃなくて、アクセントをつけて、たとえばこっちは明るい森、この森は恐い森とか、いろんな森を作ってね、他の地域の人を引きつける。自分たちだけで楽しんだらもったいないですよ。

●特色が出て、自分たちがつくったところにみんなが来るんだって思ったら…

辻井：そう。面白い。そういうようなものをつくって、なんだか面白そうなことをやっているっていうことになると、土地の人にも弾みになる。

●森づくりは地元の人が地元のために何かをしていこうっていうきっかけになるっていう話もしたのですが、みんなで楽しむことがそのためのキーワードのひとつとして大きいですよ。

辻井：そうですね。重要になりうると思いますよ。まじめすぎるかもしれないよ、みんな。まじめが大切なんだけど、ことごとくまじめだと疲れてしまうから、楽しみながらがいいよね。

●森づくりを楽しむことが協働の関わりと地域への愛着をつくるんですね。なるほど。

インタビュー 辻井 達一さん



北大農学部附属植物園長、同大農学部教授、北星学園大学教授を経て、1997年より(財)北海道環境財団理事長に就任。他、国際湿地保全連合、中央環境審議会、北海道遺産構想推進協議会会長。名実ともに北海道の環境活動の牽引者を勤める。

案山内

小川邦夫的的

最終回 春の足音

先日、恒例の「冬まつり」を行いました。今年は天候に恵まれ大勢の子ども達も遊びにきてくれました。会場入口の大雪像？今年は何を作ろうか？西塾くんが猫バスを作ろうと言いました。技術が追いつかないので、少し簡単なトトロに決定、作成途中はバイキンマン？と言う声もありましたが完成した雪像は、子ども達が「トトロだ

あ」と言ってくれたので、安心しました。来年こそは猫バスに挑戦します。また同日開催で手づくりそりの大会「山社カッパ」を行いました。モモンガくらぶの方が作った横断幕やスタートシグナルなど素晴らしいセットが設置されました。オームスのそり対決に、子ども達は大喜びに盛り上がりました。山社カッパも恒例になりそうです。冬まつり、雪中キャンプで今年度の主催事業が終わり、今、スタッフは次年度に向けて英気を養っています。3月を迎え、このところのポカポカ陽気で、急速に雪解けが進み春の足音が聞こえて来ている。鉦山町です。

オープンから34ヶ月の活動報告

●ふおれすと鉱山の主催事業

冬のスペシャルウィーク 1/14~16

今回もモモンガくらぶを中心にたくさんの方々にお手伝いいただき、大盛況となりました。鉱山の自然を感じながら、冬だから元気にやりたい外遊びや、冬だからのんびりやりたい室内の活動をたくさん用意し、みなさん思い思いの冬のひと時を過ごしました。子どもから大人まで自分のリズムで楽しむことのできるスペシャルウィーク。次回もお楽しみに！

キャンプシリーズ「雪中キャンプ」 高学年2/12~13 中学年2/26~27

高学年は冬山に挑戦です。目指すはカムイヌプリの山小屋。重～い荷物を背負いながらも動物の気配に心ウキウキさせて登りました。山小屋ではマキ運びや食事作りに精をだし、暗やみのシバル森の中ではガムシヤラな雪遊びもしちゃいました。ランプの下で食べた、あの夕食のおいしさは忘れられません！

中学年の雪中キャンプ、子どもたち自身の力で外で一晩を過ごすための準備をしました。それだけでは子どもの元気はおさまらず、夜になっても外で大はしゃぎ。起きてきた朝の気温はなんと-11℃！鼻の穴も凍りつく寒さの中一晩を過ごした子どもたち。みんなの顔がちょっとたくましくなったように感じた朝でした。

冬祭り 2/6

絶好のまつり日和にも恵まれ、とにかく雪の中で遊んだ、あそんだ。ソリすべりに、長靴ホッケー、カマクラ、ポニー乗馬、雪玉入れ、雪球速球王、人間ばんば、なんでもあり…。山に囲まれた小さな鉱山町は、一日中にぎやかな子どもたちの遊び声が響いていましたよ。

●モモンガくらぶの主催事業

「歩くスキーを楽しむ①・②」 1/22、2/11

ふんわかと降りつもった雪の林道を歩いていきました。ゆっくりなので初めての人でも余裕をもって楽しむことができましたよ。小1時間ほど歩き、ほどよい汗をかいたらお洒落な雪のテーブルでティータイム！森の喫茶店で楽しいおしゃべりは続いたのです。

●ふおれすと鉱山とモモンガくらぶの共催事業

「そり作りに挑戦シリーズ」 12/23、1/23、2/6

「子どもの頃は自分でソリをつくって遊んだもんだ…」そんな大人たちとそり作りに挑戦！初めて出会う道具、材料、人…。大人にとっては何十年ぶり、子どもにとっては初めての経験。思い描いたソリを形にするまでにはたくさんの苦労がありましたが、子どもの想いと大人の「ワザ」が一緒になったソリが出来上がりました。最終日にはピックイベント「山神社カップ」でソリを競い合いました。

コーザンネイチャーガイド (KoNG) 養成講座最終テスト「夜の動物観察会」 12/25

第1期「KoNG」が誕生しました！4月から鉱山町の自然を人に案内するための講習、実習を修了した12名。これからは鉱山町のネイチャーガイドとして活躍していくことになります。ふおれすと鉱山に遊びに来られる方々も是非一度「KoNG」のガイドを受けて歩いてみてください！



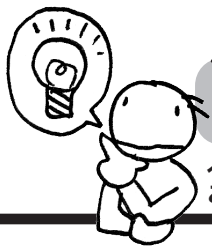
ボランティアの
つぶやきコーナー

モモンガの
コレが熱い！！

毎回大盛況の「スペシャルウィークミニチュアクラフトのふくろう」でも、作り手の熱い想いは複雑だった・・・。

“ふくろう”誰もが知っているのに空想の様なイメージをかきたてるめずらしい動物だなと、つくづく思う。ミニチュアクラフトに関わって2年、イベントには初心者向けであることや要望もあって必ずふくろうを教えてきた。(教えるのが簡単とか自分の実力不足というツッコミはなしで(汗))。今回の冬スペでは教えるには厳しい程にぎわったので、大きさを変更する事にした。これが意外にも好評で、ミニチュアでは難しかった個性溢れる作品が次々と誕生した。個性的な作品が並ぶのは喜ばしい事だが、ただ気になる点が自分にはあった。それは、どれも“かわいい”という事。空想が先行してしまい、本物のフクロウの姿を知っているのは、僅かな人達なんだろなーと感じた事である。

何年先か分からないが、“ふくろうの森”を作ろうと思っている。建物の内外を問わず、“自然の良さを伝えられる親しめるフクロウ、スタッフが説明できる色・形・生態にこだわったフクロウ”をあちこちに配置したい。本物志向でプログラムへのパイプ役として役に立てれば良いなど。そして多くの方が賛同し、一緒に作ってくれればと、願っている。



使える？ふおれすと鉱山 小ネタ集⑨

ふおれすと鉱山のプログラムは、小ネタ（アクティビティ）の連なり。
ここでは使えるアクティビティを特別にご紹介。

雪・氷遊びに一工夫

今年の雪は、スタッフ泣かせの雪でした。一番雪のほしい12～1月にはまったく降らず、もうイベントも終わったし、雪はいらないねと話していた2月下旬からガッパリ降りました。冬将軍にも、1年に降らせなければいけない雪量のノルマがあるんでしょうか…。ということで、今回は今年のふおれすと鉱山ではやった雪・氷遊びを紹介します。「ソリ遊び」「雪合戦」という2大雪遊びを超える遊びはなかなか思いつかないのですが、それらに一ひねり加えて、より面白くカゲキに遊んでしまいましょう。

ソリクロス

人気のソリもただ滑っているだけでは退屈です。そこでいろいろと工夫するわけですが、一番盛り上がったのが、「ソリクロス」と呼ばれるレースです。ソリがちょうど滑り終わる辺りに置かれた2～3個のボールを、4～5人がソリで猛然と取りに行くのです。イメージとしては「ビーチフラッグス」のソリ版、という感じでしょうか。慣れるにしたがって「相手のコースを邪魔してもいい」「相手のソリをつかんでもいい」とルールをだんだん緩和していくと、いやがおうでも盛り上がります。指導者は、過激さと安全性のバランスを取りながらルールを決めることが重要です。



森ソリ



なんてことはない、様々な形状をした、そしていろんな木の生えた森の中を、ソリで疾走するのです。…そう、当然、木にぶつかったり、落ちこちたりするという不安が出てきますね。しかし、よく、よお～く斜面を観察すれば、絶対にぶつからない安全なコースを必ず見つけられます。え？ソリじゃターンできないって？…それが、実はできるんです。スキーのように小回りがきくわけではありませんが、体重移動や足を駆使すれば、ある程度のターンはできます。一歩間違えれば木に激突してしまいそうな坂を何度も眺め、理想とするコースを綿密にイメージし、そしてきっちり滑り終えたときの、あの突き抜けるような快感は、癖になります。

リアクション雪合戦



ソリで坂を上るのに疲れると、次はその辺の雪を投げ合って雪合戦が始まります。世の中にはいろんな雪合戦があって、それこそ国際大会までありますが、まあ無邪気に雪をぶつけ合うだけでも十分に面白いものです。いろいろと試してみると、どうやら雪壁とか木とか、身を隠すことのできる場所があると面白いようです。しかし、夢中になればなるほど「顔に当てた」とか「至近距離で思いっきりぶつけた」とか、なんかこう殺伐とした雰囲気になります。そこで、ひとつだけルールを決めます。「もし当てられたら、思いっきり派手に倒れるんだぞ。映画の中で、ピストルで撃たれた人みたいに」。これがけっこう面白い、というか、雰囲気が一気に和みます。まず、雪をぶつけると、相手が派手に倒れるのでかなり快感です。当てられたほうも、ふかふかの雪にバターンと倒れると、当てられて悔しいけどなんか楽しい、なぜかそんな気持ちになります。

(上田 Program D)

たっつあんのドロノキ日記アナログ版

森の楽しみ方

最終回 動物たちの“落とし物”、ウ〇チは語る

足跡も何も無い林の中にポツンと落ちた1cmほどのつり鐘型ウンチは、樹上を駆けまわるエゾリスのもの。木の股に褐色の米粒ウンチがたまっていればモモンガのトイレにちがいない。



動物たちの足跡を追って白い雪面を歩いていくと、彼らの“落とし物”を目にします。小高くなった雪の上、目立つようにちょこんとかわいらしい!?ウンチ!を見つけました。黒く細長いそれはどうやらイタチかテンの糞。石や木の切り株の上など何でこんなところに?と思う場所にあるアレです。わざわざ目立つような場所にするのは「ボクはここにいるよ」なんてなわばりを知らせるために行う表現行動。私たちには隠すべきものであっても、彼らにはコミュニケーション手段として大切なこと。

真ッ赤!! なそれに出会ったこともあります。当然食べたものによってその色・形が違ったりするのでしょうか…。ほじくってみると中には植物の種がびっしり。肉食で知られる彼らですが、果実を好む者もいるとか。場所や季節によっても違いますが、小動物の毛や骨、昆虫や果実の種など出てくるものも様々。時には毛づくろいで

取り込まれた自分の毛が混じることもあるそうです。そんな動物たちの落とし物をつぶさに見ていくと、彼らがどんな生き方をしているのか垣間見ることができるはず。ウンチを情報源にして推理していくと、その食性・行動はもちろん、個性?!までわかったりして。ウ〇チもいろいろ教えてくれる?!のです。

text & illustration 本山達朗

冬の訪問者

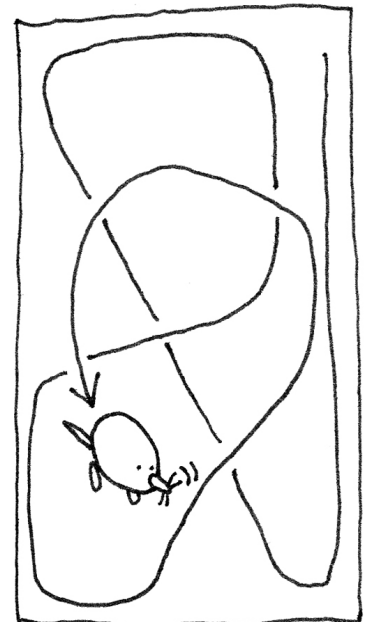
えんどうめぐみの森のひみつシリーズ⑫

この冬、古米をしまっていた事務所の隣の部屋に、とあるネズミくんがやってきました。

しかし、ただのネズミくんじゃ、ございません。その名は、オオアシトガリネズミ。ネズミという名前がついていますが、ネズミの仲間（げっ歯類）ではなく、モグラの仲間（食虫類）なのです。よく道端で死体を目撃したことはありますが、生きたお姿は、初めて拝見！じっくりと観察してみると…。細長い鼻を上下左右に振り回しながら、とても、せわしなく動き回っています。そして、ピチピチ独り言を言うように鳴くこともあります。このトガリネズミくん、ほとんど地中で生活しているため、目が退化していて、その分、敏感な鼻先の感覚器官で、餌を探っているようです。トガリネズミたちは、基礎代謝量が高く、常に食べ続けなければ死んでしまいます。なので、鼻先のアンテナはとても大事なのですね（この鼻先のしくみもかなりオモシロイ）。

さて、、、オオアシトガリネズミはミミズが主食なのですが、なぜか、古米の入っているダンボールから顔を出したところを発見。お米についている虫を探していたのか、お米を食べていたのかは???

ふおれすと鉢山の古い校舎に間借りしていたこのトガリネズミくんも、森に帰る春がもうすぐやってきます。



部屋の中をちよろちよろと走り回っているに違いない

リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

鉱山と歩くスキー

成田 脩三

歩くスキーと言えば、地味な印象があるようです。たしかにグレンデスキーのような華やかさはありませんが、まったく違った楽しみがあります。では、どんな魅力があるのでしょうか。私は、なんととっても自然と丸ごと遊べることに楽しさを感じています。

冬の山林は、夏とは違った表情をみせてくれます。木々につもる雪、綿帽子をかぶったような岩、鉱山を流れる川、これらが一体となった白い世界は、“美”そのものです。そんな中、スキーで好きなところを自由に滑る楽しさは、なんとも言えないものです。野鳥や動物たちにも出合えることもあり、面白さを倍加させてくれます。木々を飛びかう小鳥たち、テン・リス・シカなど、、、、本当に可愛いものです。

もうひとつ、雪の上に点々とつく動物の足跡、これも魅力です。何の動物か？どこへ何しに行くのだろうか？どっちが前足？進行方向は？などと想像をめぐらせます。そうすると、あの可愛い足跡から、いろいろなものが見えてくるような気がします。

そんな魅力にとりつかれ、仲間たちに支えられながら、歩くスキーで遊び15年も過ぎました。カルルス奥の氷筍をひそかに楽しんだり、テントで野営して寒さと戦ったりなど、想い出もあります。鉱山のすべてのコースを走破する！そんな目標も達成しました。この冬は、何度かみなさんと行事で一緒しました。参加した人たちから、「気持ちよかったー」「面白かったー」などの感想を聞くとうれしさを感じます。行事のたび、顔を出す人も増え、年齢幅も広がりました。リーダーも増えました。人気が出てきたと思います。もちろん、怪我などリスクもありますが、体力に合わせた運動で心地よい汗をかく。そして、自然を楽しみながら、自然を知るようになる。そんな良さがあると思います。もっと、たくさんの人たちが鉱山のコースがにぎわうことを願っています。



ふおれすと鉱山設立以前から鉱山町に関わっているモモンガくらぶ会員。パードウォッチングや歩くスキー、動物の足跡観察会などで幅広く活躍してくれる。日本野鳥の会室蘭支部の支部長でもある。

ほんねのスタッフ ⑧何の勝負だ？

スタッフ同士でごはんを食べたあとの洗い物は、ジャンケンで負けた人がやる事になっている。バクバク高鳴る胸の内を強引におさえ込み、スタッフがそろそろテーブルにつく。引きつった表情、不気味な笑み。かんだ拳を握り締め緊張高ぶるスタッフ。皆一様に「本気」オーラを発しながらも平静を装っている。一触即発?!「私、〇〇にするから」「あ〜、ハ〜ん」「早くやっちまおうっ!」カマをかけたり、勝負をけしかけたり、ポーカーフェイスを装ったりと、息もつかせぬ心理戦を繰り広げた拳げ句、覚悟を決めて!渾身の・・・グー!!

スタッフで食卓を囲む度に繰り返されるこの戦い。この緊張感は何度経験しても慣れない。興奮絶頂の勝負の後に生まれた一人の犠牲者。勝負に散ったスタッフは、流しに一人立ち、負けた屈辱をかみ締めつつ山と積まれたスタッフ全員分の皿を洗わなければならない。いつから始まったのかはわからない。[自身のモチベーションを一気に高め能力全開で物事にあたる!]などという狙いで仕組まれた研修なのか?食後の「よっし、やるか!」その一言で心臓がキュ〜んと引き締まる。「ジャ〜ンケ〜ん・・・」一瞬でアドレナリンが大放出されるその言葉。「いつでも本気!!」の鉱山スタッフ(?)に、正直ついていけない時もある。(M)



EVENT INFORMATION

ふおれすと鉱山の事業

イベント千秋ワク

- 4/16 (土) ~17 (日) 「第2期KoNG養成講座①」
- 4/24 (土) モモンガくらぶ主催「ワンディハイク」
- 5/3 (火) ~5 (木) 「GWスペシャルウィーク」
※3日モモンガくらぶ主催「ハードウォッチング」
※4日モモンガくらぶ主催「桜と野点」
- 5/29 (日) モモンガくらぶ主催「春の登山会(来馬岳)」
- 6/18 (土) ~19 (日) 「第2期KoNG養成講座②」
- 6/26 (日) モモンガくらぶ主催「初夏の草木染め」

ふおれすと鉱山の!

GW
スペシャルウィーク
今回もみんなで楽しめるイベント満載!

2005
5 / 3 ~ 5 / 5
(火) (木)

□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□

などなど、楽しいプログラムいっぱい!

イベントのお問い合わせ・お申込みは「ふおれすと鉱山」
TEL.0143-85-2569 FAX.0143-81-5808
まで、お気軽にどうぞ。

。。。身近な野の草花を食卓に。。。

わ い る ど れ し ぴ

えんめくの

【用意するもの】
スギナ(タネ科)ついで(菜蓴菜)
オオヨモギ(モリ科)若い葉
カモトオシ(シン科)紫色の花が
つく前の茎

①みずみずしい状態で採集します。

②よく水洗し、天気の良い日に天日干し。その後陰干しします。

③十分に乾燥したら、ハサミで2cmに刻みます。

④土鍋(もしくはコンロ)に弱火で煎ります。

⑤沸騰したお湯で2~3分くらい煎じてごさあがり。

※保存もできます。防湿剤を入れず、フレンジいでも美味しい♡
緑茶、玄米茶をいれ入れもグー♡

それぞれに作ってみて!

春の野草茶はいいが
すてきな香りとともに、くっつきませせんか。ちなみに
ヨモギ...体をあたためる
スギナ...利尿作用促進
カモトオシ...血糖値を下げる
といわれています。



モズ
(佐藤 南津子)

ふおれすと鉱山ご利用のご案内

開館・9:00~17:30 入館料・無料
休館日・毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります)
・工作室・図書室はご自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、歩くスキー、マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。

EDITOR'S LOUNGE

春は別れの季節だと言う。いつも一緒に活動してきた仲間が、今年は思いのほか多く自分の周りから移動してしまう事になった。もっともっと教えて欲しかったこと、もっともっと仲良くなりたかったこと、今になってから思うことがたくさんある。自己嫌悪と後悔が尽きることはない。雪が解ける季節はだから嫌いだ。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 Vol.12
発行：2005年3月
発行所：〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3
電話番号：0143-85-2569 FAX: 0143-81-5808
E-Mail : kouzan@pluto.plala.or.jp
URL : www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/forest/index.htm